

## 第1回函館市行財政懇話会会議録

日 時 平成23年2月2日(水) 18:00~  
場 所 市役所8階 第2会議室  
出席委員 乳井委員(座長), 鎌田委員, 高木委員, 寺坂委員, 村上委員

### 【会議概要】

- 1 開 会
- 2 副市長挨拶
- 3 委員および事務局紹介
- 4 函館市行財政懇話会の概要等の説明

総務部次長 ~「函館市行財政懇話会の概要等」に基づき説明~

座 長 それでは早速, 会を進行していく。  
本懇話会は公開で行っており, その議事録は要約筆記の形で公開されることとなるので了承していただきたい。  
それでは次第にそって議事を進めることとしたい。  
事前配付されている資料に基づき事務局の説明を求める。

財政課長 ~「財政の現状」に基づき資料説明~

座 長 今の説明に対し何か質問等はあるか。

A 委員 資料の5ページと7ページの地方交付税の額が合わない。これはどういうことなのか。

財政課長 5ページの地方交付税については地方交付税という歳入科目で収入されている数字であり, 7ページの地方交付税については, 臨時財政対策債, いわゆる地方交付税の振り替わりの借金の数字を含めており, 本来, 収入されるべき地方交付税ということで計上しているものである。

A 委員 今の説明の内容は, この資料を見ても分からないということになるのか。

財政課長 この資料でいうと, 5ページの地方債という項目の一部になっている。臨時財政対策債に特化した数字は記載していない。

A 委員 10ページの平成21年度の人口一人当たりの事業費が49,918円となっているが, これは平成22年度予算を平成21年度の人口で除して算出され

ているのではないか。

財政課長

確認させていただく。

座長

他の委員から何かないか。

B委員

私からは特にはない。

C委員

今の説明を聞いて、現状の問題意識を持ってこの資料を作っているのかという印象を受けた。

例えば人件費の部分では職員数は減らしてきているが、他都市とくらべてどうなのかといった分析もあまりしていないようだし、他都市と比べて函館市の弱い部分だとか劣っている部分といった問題点を明確にし、それを改革するためにどうするのかという資料にもう少しなっていれば良いのではという思いである。

別途配付された資料についても分かりやすい形でまとまっはいるので、あとは何がポイントで、どんなアクションを起こす必要があるのかといった部分を整理すると、もっと分かりやすい資料になるのではないか。

組織の中を改革しようと思っても、自分自身が組織の一員なので、自分自身が身を削ってというようなことにならないような資料作りになってしまっているのではないかと感じた。

行政改革課長

職員の分析については、このあと説明する行財政改革の概要のなかで、十分、不十分はあるかと思うが説明させていただく。

また、今回の懇話会では市の企画、総務、財務のそれぞれの部長と意見交換をしていただくこととしており、その中で現在、市が抱えている課題や問題点について十分議論していただくこととしている。

この資料は経年のデータを集積させることを目的に作成している資料であり、本懇話会の説明用に作成したものはなっていない。あくまでも市の財政の現状を認識してもらおうと用意したものなのでご理解いただきたい。

C委員

もう少し具体的にお聞きするが、例えば5ページの道内8市に比べ市税収入が2ポイントくらい低い状況となっているが、その低い理由などについて分析したことはあるのか。

次回までにそういったものをお示しいただければ何かでてくるかもしれないと考えている。

また、6ページの扶助費についてだが、確かに道内8市あるいは類似団体と比べて高くなっている。私は他の市町村に住んだこともあるが、函館の人の所得が他都市と比較して低い状況にあるとは感じていない。

恐らく扶助費を支出するにあたっての市町村ごとの判断があるのだろうと思うが、どこに違いがあるのか分かるのであればお知らせいただきたい。

それから人口千人当たりの職員数についても、道内8市と比べ千人当たり1人分も変わらないとのことであったが、人口が29万人いると、千人当たり1人違うと職員数にして290人違いが出てくる。

また、226億円の人件費に対して2,222人の職員数と言うことは、単純に割り返すわけではないだろうが、1人当たり1千万円近い金額になる。一人1千万円の人件費というのは私の感覚で言うときすごい額の人件費だと感じる。先般報道で全国の給与所得者の平均が、2百数十万円というのを見た気がする。

財政課長

次回までに細かい分析の部分はお答えさせていただくが、人件費に関しては、226億円のうち退職金が30億円程度計上されているので、単純に割り返すと1千万円くらいになってしまうが、市職員の平均給で言うと法定福利費、いわゆる共済費を含めて800万円くらいになっている。

C委員

私は行政の経費については素人だが、民間ベースで言うと法定福利を含めて115%から120%程度であるというイメージなので、120%の額が法定福利費を含めた金額となり、例えば1,200万円の人件費と企業が言ったときには1,000万円くらいの手取りと認識している。

行政改革課長

そういう意味では、法定福利費を除く650万円くらいが年収ベースの金額となる。

C委員

それでは先ほど、退職金として30億円程度計上しているとのことであったが、隠れ債務としての退職金はいくらくらいあるのか、いわゆる今後支出予定の退職金である。これまでの説明の中にはでてきていないのだが。

財政課長

各会計の予算については現金ベースで記載している。今説明はしなかったのだが、事前に配付している「函館市の平成21年度財務書類」、これが民間における貸借対照表になり、この中で退職引当金として245億円と言う額で記載している。ただし、この貸借対照表等の財務諸表についても、作り始めて2年しか経過していないものであり、国においてもこれをどう活用していくかを検討しており、今ご指摘のあった将来的な退職金などについても、別な資料を見なければ分からないという形になっているので、今後どのような形で表現していくのかは課題としてとらえている。

D 委員

ようするに、事務局の説明を聞いていると、私たちが何のために集まっているかという視点が抜けているような気がしている。

もっと行財政を改革しなければならないという危機意識を持って説明すべきだと思っている。函館市はまだまだ余裕があるように聞こえてしまう。

財政課長

決して函館市が余裕があるということではなく、本日は現状をお知らせしたかったというのが趣旨である。

今後の函館市の見通しとしてはどうなのかといったことであれば、ここで具体的な数字についてお示しすることは出来ないが、例えば、これまでの説明の中でふれた扶助費でいうと、現在、生活保護費が200億円を超えているという状況の中で、これが5年後どうなるのかという、そこでもかなりの額の財源不足が生じることとなる。また、市税についても生産人口が減少していくといった中で、かなりの額で落ち込むと思われる。平成22年度当初予算で33億円の財源不足が生じており、この金額が現状を踏まえると、圧縮できるいい材料がなく、かなり厳しい状況であると認識している。

基金、いわゆる貯金も底をつくし、市税、交付税といった自主財源が増えるような状況も非常に考えにくいといった状況で、何かに取り組むととなると、例えばひとつひとつの事業を見直しながらスクラップしていくことが考えられる。そのスクラップする手法などについて委員の皆さんと意見交換をしていきたいと考えている。

D 委員

函館の方々がこんなに保護率が高いという状況が信じられない。何かどこかに不備があるのではないか。

また、市の職員の年収が平均で650万円ということだが、民間事業者からするとこれはとんでもない金額である。そういことからするとまだまだ現状に対する危機意識が低いように感じる。

例えば病院の医療費や税金等の未収金は結構な額があるはずである。どういった形で収支をプラスにするために収入を上げていくといった努力も必要であり、単に経費を削るだけが行財政改革ではないと考えており、収入の向上を図ることも改革になるはずである。

職員の皆さんがどこにポイントを置いて取り組むのかということ逆を聞きたい。漠然と将来的に不安だからということではなく市の担当者がどういった部分を改革する必要があると考えているのか是非聞いてみたい。

行政改革課長

これまでの行財政改革の取り組みの検証や行財政運営上の課題については、本日ご議論いただいたことを踏まえて、次回の懇話会でお話しさせていただきたい。

本日は、まずは市の現状を共通認識としてご理解いただくための説明

として位置づけていたところである。

座 長 次回は市の部長が3名出席されることになっていたと思うが、今各委員から発言があり、私も感じていたことだが、ただ説明を聞くだけではなくて、危機意識のポイントをどういったところに持っているのかということ、具体的にはっきりとした形で、また、そのポイントも数多くあるのだから、優先順位をつけて明示したうえで議論することが、絶対に必要になる。その方が議論が具体的かつ有効なものになるはずである。

行政改革課長 次回の懇話会はその方向で考えている。

座 長 それでは、次の「函館市の行財政改革の概要」について説明していただくこととする。

行政改革課長 ~「函館市の行財政改革の概要」に基づき資料説明~

A 委員 質問というよりはお願いになるのだが、私は行財政の専門家ではないが、何かを期待されて委員に呼ばれていると考えている。そういうことで事前に配付された資料については、読み込んでくるのだが、その中で先に説明された「財政の現状」と、今、説明をいただいた「函館市の行財政改革の概要」それぞれで、職員数の推移という同じタイトルの項目なのに数字が違う。説明の中でそれぞれの数字のとらえ方が違い、一定の係数による補正がなされているとのことであったが、できれば配付される資料については数値の一致しているものを使用していただきたい。

行政改革課長 そういった部分については次回以降、十分に配慮させていただく。

A 委員 確認したいのだが、今回説明されている資料のうち「財政の現状」は市民向けにも公表されているもので、「函館市の行財政改革の概要」は本懇話会用に作成したものであるということでしょうか。

行政改革課長 そのとおりである。ただし「函館市の行財政改革の概要」のうち、職員数等についてはホームページ等で公表はしている。

A 委員 なぜ数字の違いにこだわるのかということ、その資料が何を意図しているものなのかが分からなくなるからである。一方では類似他都市に比べて職員数が少ないとあって、もう一方では多いとあって。これでは何を言いたいのがよく分からない。

行政改革課長 資料の数値の不整合については大変申し訳ない。私どもが言いたいので

は人口補正等をする、他都市に比べまだ職員数は多い状況にあるが、これまで行財政改革を進め、職員数の削減をしてきており、一律的な削減は困難な状況にはなっている。ただし部門ごとに分析をしたときには、まだまだ見直しの余地はあるという思いで作成させていただいた資料としてご理解いただきたい。

C 委員 過去の行財政改革の取り組みの中で、例えば市立病院を廃止または民営化するといったことを検討したことはあるのか。

行政改革課長 市立病院の廃止や民営化をするといった方向性での検討はしていない。

C 委員 先ほどの資料によると市立病院の赤字額は26億円ということになるのか。

財政課長 26億円は一般会計から病院会計への繰り出し金。税負担の額である。

C 委員 それはということなのか。

財政課長 市立病院経営をするにあたっては、公立病院の役割を果たすために、病院の収益だけでは賄えない部分があるので税負担しているということである。

C 委員 毎年、26億円負担しているということか。これは私たちにしてみると理解できない部分である。

函館市は総合病院が非常に多い町である。医療関係の方とお話したときに、「函館は素晴らしい医療都市で、人口一人当たりのベッド数は平均の1.7倍くらいある」とのことであった。その1.7倍のベッド数のある町で市が病院を運営し、20数億円を支出し続けること自体にどのようなかという疑問がある。しかも数ある総合病院が皆、赤字ということではなく黒字で経営されている。そういう中で市立病院の赤字の体質というのが私には理解できない。

いっそのこと民間に任せの方が良いのではないか。

私は中身を十分に承知していないので勝手に言っているのかもしれないが、それだけのことをやってみようというトライしたことがないというのが不思議な感じがする。

それから今、説明いただいた行革の概要についても、説明の大半が職員数の話であった。そうするとそこが市のウィークポイントであると認識しているのではないか。また、旭川市、青森市との比較の話もされていたが、青森市では職員数が少ない理由に一部事務組合で行っている行政部門があるとのことであったが、その方法がベターであるのか、ある

いはそうすることによるデメリットが大きく市民は喜ばないとするものなのかというような説明がなく、函館市は直接担っているから職員数が多いでは片付けられないのではないかと。それは保育園の問題もそうである。

そういった問題を含めて他の市町村と比べ違いがあって、その違いが職員数に反映されているとすれば、いい意味で近づけて職員数を減らすだけとかそういう努力を今後していけばいいのではないかと。

行政改革課長

私どもとしては財政の分野にしても、職員の問題にしても全く課題が無いという意識で説明はしていない。当然に危機意識というのは持っている。

今後は委員の皆様の提言を踏まえて対策を策定していきたいと考えているので今後、十分に議論させていただきたい。

座長

旭川市との比較をしているが、旭川市が健全な都市ということか。

行政改革課長

財政的な面からいうと、道内のいずれの都市も厳しい状況である。

今回、旭川市と比較した理由については、同じ権能を持つ同規模の人口の都市と職員数を比較した時に、どのような状況になっているのかをお示ししたかったものである。

座長

データにもあるが人口減少に加え、行政区域の増に伴う未整備の地域が増加により、なかなか改善したくても改善しづらい状況が生まれてきているのではないかとと思うがその辺はどう認識しているのか。

行政改革課長

行政運営していくにあたって、密集していた方がより効率のいい行政サービスが提供できる。社会資本の投資もそうである。

ただし、今、座長からご指摘のあったとおり、漁村・農村地区のように集落ごとに人口が張り付いているというような町では、社会資本整備を含めて財政投資という面では、効率が悪くなっていると思われる。面積が広がるうえに、財政投資をしなければならない集落が点在するということは財政上も非効率になると思われる。

財政課長

一般的な話をするとやはりコンパクトに収まっている方が、行政的な効率はいいということになる。

座長

ただ、そうではないという現状があるなかで、職員数が多いという状況だとすれば、少ない人数でうまくまとめて運営していくには、どうすべきなのかという点についての対策、考え方というのはあるのか。

行政改革課長

これまでも職員数の削減はしてきている。ただ平成25年度以降にど

ういう手法で削減を進めていくのかといった具体のイメージはまだない状況である。

大きくはアウトソーシングであるとか、個別分野の統合であるなどといった個別の考え方についてはあるが、トータル的に行政運営をするために、どのくらいの数の職員数が適正で、どこに配分していくのかということについては、現段階で明確にお示しすることのできるものはない状況である。平成25年度からの対策策定までにそういったものを含めて検討していかなければならないものと考えている。

これまでは他都市より多い職員数をとにかく削減してきたところであるが、これからは座長がおっしゃっていたように、どこかに集中的に行政投資をする分野がでてくる訳だから、そういった分野に選択と集中の視点で取り組む必要がある。

D 委員

他都市の提言書も見させてもらったが、我々が集まって検討をするといったことを経なくても、作文で作れるようなことしか載っていない。

例えば、他の委員からも発言があったが、市立病院を廃止するというような提案をして、果たして本気で取り組む気があるのか。サプライズ的な改革の案をだして市は受け止められるのか。

これまでの事業を抜本的に見直すためにやるのか、それとも今までの延長線上で、アウトソーシングの推進だとか新規採用の抑制程度でやっていくのか。従前通りのやり方であればわざわざ我々を集めて議論する必要はないのではないかと考えている。

本当に市は我々の改革に対する提言を受け止められるのか。

行政改革課長

当然、提言については受け止めをさせていただく。

懇話会では、委員の皆さんからも様々なご意見をだされると思うが、行政運営をするにあたっての考え方もあり、そこはしっかりと議論させていただきたい。そういった議論の中で導き出された結果というものを尊重させていただき、今後の行財政改革を進めていかなければならないものと考えている。委員の皆様の提案に対し、我々はこう考えるといったことだとか、逆に新たな課題が生じるだとか、今後、会を進めるにあたって、そういった議論を重ね、意見交換もしながら進めていきたい。

C 委員

私もD委員と全く一緒に、我々の議論が作文で終わるような提言書になるのであれば、言葉は悪いがパフォーマンスで終わるのであれば、何度もこの場に出席して意見を述べたり、皆さんと議論するのはどうかと正直思っている。

突拍子もないことかもしれないが、真剣に函館市を良くしようと思ったら、財政の問題は避けて通れないだろうし、人口の問題も人口減に対して何かアクションを起こしているのかということについても非常に疑問である。そういった様々なことを含めて、何かアクションを起こせる



ようなヒントのようなものを出していきたいと思うし、その結果、極端な例えになるが市立病院のことについても、市民の中にもいるという人も、いないと言う人もいるだろうし、それでいないという人が多ければ廃止するなり民営化するなりといったこともひとつの手法であると思う。

そうすることで毎年約30億円の支出が抑えられるとすれば10年で約300億円であり、市の予算規模からすると相当な額である。

財政課長

提言をいただいた部分については、サプライズ的なものであっても構わないし、それは議論の中でまとめていければいい。

絵に描いた餅のような言葉を並べるだけでは、意味がないと思っている。我々も昭和56年からこの間、ずっと行財政改革を進めてきて、主にその手法を職員削減によって行ってきた。これからの行財政改革というのは職員の削減だけでは恐らく耐えきれない。新たな次元の行財政改革というものが無いと、他の自治体もそうだが破綻することになる。

その新たな次元の行財政改革というのが何かということで、先ほどから話題として出ている病院。そういった個別の議論をしてもらうのは構わないと思っている。そういった個別議論をしていく中で、例えば最終的に大きな括りとして病院を含む市の公共施設のなかで不要なものがないのかといった提言になるのではと思っている。

座長

斬新かつ鋭い提言であっても構わないということによいか。

行政改革課長

私どもも、そういった提言をいただいたなかで、行政側の意見も述べさせていただき、議論をしていきたいと考えている。

議論もしない一方的な提言であれば少し乱暴なものになってしまう恐れがあるので、私どもとも意見交換をさせていただきながら最終的な提言を作っていきたい。

座長

議論していく中での話だが、懇話会側から様々な意見はでると思うが、それに対して市側から反論がなければ何の意味もない。

市立病院を民営化しますといった意見がでて、それを出来ないとしたときに、何故それができないのかということがないと議論にならない。

そういった部分でもきちんとした考え方を示してもらわないと議論が展開していかないということになる。

行政改革課長

そういった部分については、こちら側も十分に対応させていただきたい。

座長

他に何かあるか。

D委員

まあ、今日は初対面でもあるし、中々踏み込んだ議論もできないだろ

うけれども、事務局の意思を確認するという部分もあったので色々発言させていただいた。

ただ行財政改革というのは自分たちの首を切ることもあり得るものであり、それぞれの職員が十分に危機意識を持って、それを共有しなければならないと思っている。他の部局のことであれば自分には関係ないということではすまないはずである。

あと職員数が削減されていることにはなっているが、これは正職員分だけではないのか。臨時職員などは増えているのではないのか。

行政改革課長

市の組織の中には正職員のほかに嘱託職員、臨時職員があり、それらの詳細なデータが手元にはないが、職員数については極端に増減は生じていないはずである。

D 委員

職員を削減するということは、仕事量は変わらないのだから、職員一人当たりの業務量が増えて、忙しくならなければならないはずである。庁舎内を見渡すと、どうも忙しくなっているとは思えない。

行政改革課長

それなりに忙しくなっているとは思っているが、私どもは職員の削減イコール職員一人当たりの業務量が増えるとは考えていない。職員を削減するために業務そのものを見直さなければならないと考えている。二人分の仕事を一人でこなすことは難しく、二人分の仕事を一人分の仕事に見直すことで職員1名を削減することができるという考え方で、私どもはこれまで職員削減に取り組んできたところである。

その考え方が行政側の感覚であって、委員の感覚とは違うということがあるのかもしれない。ただ私どもとすると職員数を削減するのであれば仕事そのものを見直さなければ、ただ単純に労働の負荷をかけるだけになってしまうこととなり、根本的な解決策ではないと考えている。

C 委員

言葉は悪いがそんなことをやっていたら市民が一人もいなくなって市役所だけが残るということになってしまうのではないのか。

行政改革課長

そういった視点で私どもは行革を進めてきたので、それが委員の皆様にとっては甘いということであれば受け止めていただくといい。

C 委員

そのことは市役所の方々はもう気づいているのではないのか。

市民から見ると市役所の職員を何人減らすだとかといったことは、業務の内容も分からないし、説明されてその数が適正だと言われれば何も言えない。

現に人件費が函館市の中で大きな負担になっており、何とかしなければならぬとした場合、それを何とかするのも市である。

市役所の職員で検討して、他都市に比べて函館市の人件費は問題ない

として市民に説明できるのであれば、そういう説明をすれば市民は理解するのだろう。

行政改革課長

言われるとおり行政として自ら考えて行かなければならない点も多くある。他に比べ職員の多い部分があるなど、我々なりに分析している部分もあり、そういった部分を改革していくということは当然であるが、皆様にご議論いただきたいのは、行政としての専門分野の感覚が、一般の市民の感覚とは違った部分があるのかもしれない。そういった視点で見たときにまた違ったアプローチの仕方があるのではないかと、といったような部分である。

これから数回、懇話会を開催することとなるが、そういった議論をしていければ良いのではないかと考えている。

いずれにしても、我々も提言についてはしっかり受け止めて、提言書を取りまとめていきたいと考えているのでよろしくをお願いしたい。

座長

今日はこれくらいにしておく。

まずは市側から課題として考えていることを提起してもらわなければ議論も進まないと思っているので、次回はそれを受けた中で議論を展開していきたいと考えている。そういう流れで良いか。

～ 異議なし ～

それでは次回以降も活発な議論をしていきたい。

本日はこれで終了する。

総務部次長

資料のなかで数字の不整合があったことについてお詫び申し上げます。

本日は現状ということで説明させていただいたが、次回は課題として捉えているものをお示ししたなかで、ご議論いただきたいと考えている。

また、本日の会議録については委員の皆様を確認をいただいたうえで公表させていただく。